あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○65

第4章・ゆとり教育世代の意欲喚起術

夢

未来は過去の積み重ね

塾を始めて23年、卒塾生は2千人を超えました。これまでの指導経験と合格実績から、成績の上位だけではなく中位、下位であっても爆発的に学習量を増やす学習法が生まれました。志学塾が実践している「OK！学習法」です。数年前から全国的に注目され、毎月のように志学塾に教室見学者が訪れています。

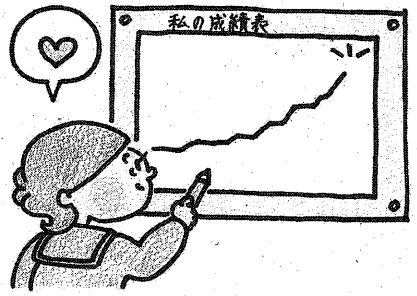
先日は、宮城県古川学園中学・高校から俱野聖一教頭先生はじめ4人の先生方がいらっしゃいました。見学の最後に10分ほどでしたが、教頭先生から子どもたちに「夢をあきらめないで」という講話をしていただきました。講話後の感想文に、中3男子は「前まではいろんな事を諦め、部活では勝てないと勝手に思い込んでいたけど、なんだかとてもいける気がしました」、中2女子は「自分に限界をつくらないことが大切だと分かりました」、中1女子は「無理だと思っていた夢もかなうことを初めて知りました」などと素直な気持ちを書いてくれました。

しかし翌日、その子どもたちから「諦めないで努力しようと思っても、そういう気持ちになりません」と相談を受けました。私は「どうして？」と考えを聞いてみました。すると「難しい問題はムリ…」「宿題が多くて…」と日常の自分たちに戻っていました。

私はクラス全体に、現在・過去・未来の話をしました。「例えば、砂場に砂山を作り、真上から両手で砂をかけます。さて、どうなる？」と。これに対し、中1男子が「大きな砂山になる」、中3女子が「いいえ、ある高さで、雪崩みたいに崩れ、そこから先は砂山全体の形は大きくはならないのかなあ」と答えました。一同は「うん、なるほど…」。私は「小さいころから何か続けているお手伝いは？」と考えさせました。一同「…」。「さて、夢って何だろう？」と問い掛けてみました。子どもたちはしばらく考って気持ち悪い…」などと目を輝かせながら想像力を働かせていました。そして私が「小さいころから続けていることは、砂山に両手で砂をかけることと似ています」と話すと、中2男子が、きょとんとして「俺たち砂山？」。続いて「過去の君たちの単純な繰り返しが、現在の〝性質〟を形作っているとしたら…。さて、夢はどうなる？」と話しました。子どもたちは、過去の積み重ねの上に、未来があり、現在にしか自分たちが存在していないというあまりにも当然の事実に、ハッとしたようです。

人はハッとしたり、ギョッとしたり、ジーンとしたりしたときに、〝気づき〟、そして〝やる気〟が出るものです。「OK！学習法」では、子育て、教育には子どもの〝想像力を待つ根気〟が必要だと考えます。子どもたちの砂山が大きくなるように、動機付けを大切にしたいものです。

（畑山篤＝志学塾塾長）



by yoriko

〝想像力を待つ根気〟必要

教育

親も知らない プロフ

子どもとケータイ ⑨

「プロフを始めてから、宿題をする時間が減っちゃ

ず

いている可能性がある。だからつい見てしまう。友達

学校

参加

地元食

栄養価な

食甲子園

している

ー。書類

ごとの予

が、11月

に臨み、

める。

条件は